

活動報告 2024

パレスチナ赤新月社・日本赤十字社

第二期医療支援事業（レバノン支部事業）

支援の背景

レバノンにはパレスチナ難民が多く居住する12の難民キャンプがあります。レバノン国内でパレスチナ難民に対する活動をしているのがパレスチナ赤新月社（パレスチナ赤）レバノン支部です。日本赤十字社（日赤）は2018年4月からパレスチナ赤がレバノン国内で運営する5つの病院への医療技術支援を開始しました。途中、新型コロナウイルスの世界的な蔓延等による計画変更を余儀なくされましたが、オンライン会議を活用してリモートでの支援を継続。1年の暫定支援期間を経て、2022年4月からは第二期医療支援事業を開始し、要員派遣も再開しました。2023年10月以降の中東地域情勢の変化により、要員派遣の中止を再び余儀なくされ、2024年7月からは、現地大学と協力し、不足する麻酔科医を補うための麻酔技師養成研修（看護師向け）と、診断技術向上研修（医師向け）を実施し、現地の医療の質の向上に取り組んでいます。

1. 麻酔技師の養成研修（看護師向け）

麻酔技師は、主に麻酔の管理と監視を行う専門職で、麻酔科医と協力して、手術前、手術中、手術後の患者のケアを担当します。麻酔機器や薬剤の準備、点滴の準備などをを行い、心電図や血圧、酸素飽和度などのモニタリングにより、患者の状態を監視します。また、麻酔の導入と維持、気道の確保、患者の体位などの調整をサポートします。研修を通して、新たに麻酔技師という専門を得ることができた看護師たちは、緊急時の蘇生措置を学んでいることから、今回の武力衝突で多くの患者を受け入れた際にも、手術室だけでなく救急部門や集中治療室などでも大きく活躍しています。



2. 診断技術向上研修（医師向け）

2023年10月までは、日赤の医師が現地に赴き、診断技術向上のための活動に寄り添ってきました。情勢の変化に伴い、やむを得ず日赤の要員派遣は中断しましたが、病院では多くの患者を一度に受け入れなければならない状況が度々あります。日赤はパレスチナ赤新月社レバノン支部とレバノン国内の大学との協力を決め、胸部レントゲンやエコー技術の習得にかかる研修を行うことにしました。5つの病院から集まった医師たちは技術のブラッシュアップの機会に喜び、熱心に手技の確認を行いました。



■日赤の中東人道危機救援事業■

- ・WEBページは[こちら](#)です。
- ・ご寄付は[こちら](#)から承っています。



問い合わせ先

電話番号：03-3437-7088

メール：kokusai-kyuen@jrc.or.jp

担当：国際救援課 事業係 中東担当

